

# 第2回立川総合支所庁舎複合施設化 町民ワークショップかわら版

第2回複合施設化町民ワークショップを、11月14日に開催しました。

ワークテーマを『たちかわマルシェカフェ』に注目し、持続可能で現実的な運営はどのようなものか、どのように使えば人が集まるか等を議論し、多くの意見を出し合いました。

## 【ワークテーマ】「たちかわマルシェカフェ」を使い倒そう!!

- ターゲットを女性に絞り、子どもと共に過ごせる場所にすれば集まるか。近隣の古民家カフェは好評のようだ。
- その場で食べ物を作るのは難しい。食べ物は焼菓子等を仕入れて販売し、飲み物だけはその場で提供がいい。
- コーヒーで学生は集まらない。アイスクリームやかき氷のようなもの手ごろな甘味がよいのでは。カフェ部分もこどもの小遣いで買えるような範囲がいい。
- 工事からオープンまでまだ時間がある。試験的な催しを計画し、人の流れや集まり具合を探ってみる。
- お酒の提供があれば人は集まると思う。夜間営業のとき、図書エリア・行政エリアとの区画やトイレへの行き来の工夫が必要になる。
- 学童が隣接していることもあり、現在でも小学生は近くに集まっている。その子たちと保護者をターゲットにして、迎え来たタイミングのみ営業する。
- 1Fのチャレンジコーナーは、カフェと併用するか2Fにまとめてもいい。その分児童図書のエリアを広げてほしい。

- 月・週替わりで運営。例えば、今週はカレー、次週はアイス等。厨房には専用機器でなく汎用性の高いものを配置。
- 最初は飲み物だけでの試行で十分。そこから来客者の傾向とニーズを把握して次の行動としても遅くない。オープン段階では給排水と電源のみにとどめてもいいのでは。
- お手軽に食べれるものにするか、スペシャルなものを追求するかの両極端な2択ではないか。中途半端ではだめ。
- 地産地消にこだわると道の駅とテイストが重なり客の取り合いになってしまうため、そこは拘るポイントではない。
- まずは人を集める企画が必要。立川にバイクツーリングに来る人が多い。ターゲットとしてもよいのでは。
- 車好きの人たちは目的地への移動も楽しんで来る。ヴィンテージカー展示会等は人気も根強いのではないか。
- メニューを地域食・伝統食に絞って差別化する。提供する団体を、建物完成までの間に組織できれば理想的。
- 情報発信はSNSで広めあってもらう時代。人を呼び込むイベントを飲食提供のタイミングを合わせていく。

- テニスコート利用、スポ少、商工会・公民館イベントの日に絞った飲食店運営にするべき。土日みの運営。
- 最低限コーヒーやお茶をいつでも飲める空間は必要。自販機やコップでも可。
- 各種イベント情報の収集が必要。役場・公民館・商工会が近くにいれば、それらの情報収集はしやすいはず。
- カフェを調理学校の子やボランティアサークルの活動の場としてはどうか。調理系の部活の一環で利用を促す。
- 野菜の無人売りの場。規格外の野菜等。
- 立ち上げ時は特定のだれかを一本釣りにしてでも、カフェ開設が必要と思う。忘れられてしまわないように。
- 公民館事業のひとつとして、飲食を扱うイベントを立ち上げられないか。地元の食材を使った料理コンテストなど。
- 地域の人たちの参画。「第〇週の〇曜日は×××の日」という運営ができれば人も来やすくなり、複数団体が協力・調整して運営できると思う。
- 2Fのたたみが広すぎる。イス+テーブルの方がいいのでは。



▲グループで意見交換



▲グループ内の意見を発表

### 事務局より町民の皆様へ

立川総合支所庁舎は、従来の庁舎から『複合施設』へと生まれ変わり、さまざまな使い方ができるようになります。多くの世代が集まり、地域がにぎわうような建物としていくためにこれからも一緒に考えていきましょう。

【事務局】 〒999-6601 庄内町狩川字大釜 22 番地  
庄内町役場立川総合支所立川地域振興係  
電話:0234-56-2921 FAX:0234-56-2628  
Email:tachiyazawa@town.shonai.yamagata.jp

掲載した内容はワークショップでの意見の一部です。

主催:羽田設計事務所+庄内町立川総合支所